

鶴岡市議会議員〔無会派・総務常任委員会〕

田中ひろし 市政報告

2013
SEP.



<連絡先> 事務所 〒 997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール：officefon@gmail.com
TEL 0235-22-0068 FAX 0235-22-0098
議会事務局 〒 997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所 2階
TEL 0235-25-2111 FAX 0235-24-9071

新文化会館「基本設計」説明会



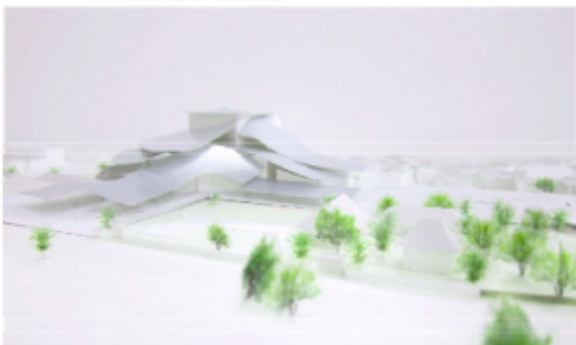
2013年7月6日、出羽庄内国際村にて鶴岡市文化会館「基本設計」説明会が開催され、100名以上がご参加でした。世界的建築家である妹島和世さんのプロジェクトだけに、遠く仙台などからの参加者もおられた模様です。

2012年8月にプロポーザル内容の市民説明会があった後、10月と12月には設計についての市民ワークショップも開催。当初案からさまざまな市民要望への対応を加えた基本設計になっています。

当日は妹島和世さんと西沢立衛さんのSANAAコンビはもちろん、舞台設計担当の本杉さん、音響設計担当の永田音響設計・石渡さん、妹島事務所の池田さんなどがご参加。設計チームからの説明が1時間ほど。その後、会場との質疑に1時間。

市役所側からのイメージ図↓

鶴岡市文化会館建築設計事務所 基本設計イメージ図【概要図】



新文化会館・平成28年上半期完成予定！

- ・巨大な建物になるが、周囲との調和も考え、やわらかい外観にしたい。
- ・「回遊性」を設け、まちとの繋がりを生み出す。
- ・今の文化会館の利用状況は本番が3割だけ、残り7割は練習。ホールを練習利用している時も、他の施設を市民が利用できるように。
- ・1階席858席、2階席304席。「ワインヤード型」を採用したのは、一体感・臨場感のため。舞台と客席、1200席が近く感じられるように。

会場との質疑では、雪への対策や緊急時の避難経路、駐車場不足への懸念などの声がありました。



↑西澤さん ↑妹島さん
(説明会の後に、模型を見ながら市民に直接説明)

なお、今回の説明会の様子を「トゥギャッター」というサービスを使ってまとめ、ネットに掲載しました

→ <http://togetter.com/li/529856>

世界の妹島さんの設計とあって、ネット上での関心も高く、全国から2000人近い方々がアクセス。完成の暁には、ぜひ鶴岡市に足を運んで、新文化会館と鶴岡の空気を体感してほしいものです！

【目次】

- ・新文化会館「基本設計」説明会
- ・6月定例会・一般質問報告
- ・視察報告：鳥根県
- ・《ルネサス鶴岡工場》情報局
- ・コラム＝子育て支援：
～第三子の保育料無料化を考える

平成 25 年度 6 月定例会を振り返ります。
 なお、鶴岡市議会ホームページから、本会議の映像や会議録をご覧ください。

→ <http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/gikai/>

H25 年 6 月定例会・一般質問

■ 新文化会館について ～基本設計案と管理運営計画

設計案について設計チームと市民が対話できるのは、7 月 6 日の説明会が最後のチャンス。国際村ホールなので 300 人の満員御礼を目指すべき。ネット中継も提案しましたが、肖像権などの絡みで NG との回答。残念！
 管理運営計画については、8 月中に運営組織や事業計画などについての市民ワークショップを開催し、9 月以降の検討委員会に生かすそうな。

■ 学校図書館について ～給食・図書パートの勤務実態は

「給食・図書パート」について。市内 51 校中、小学校 20 校・中学校 2 校、合計 22 校に配置。4～6 時間の勤務の中で、給食と図書を兼務しておられます。

昼休みの勤務実態は (1) 昼休みに子ども達の読書指導が可能なのはわずか 4 校。(2) 児童や他の職員が貸出業務を行なっているのが 14 校。(3) 貸出 NG で読書のみ可能なのが 3 校 (4) 昼休みは図書館立入禁止が 2 校。論外です！

■ 防犯・防災情報について ～不審者情報の共有：facebook 発信を！

不審者・声かけ事案、昨年度は 26 件、今年度は既に 10 件。最近はクマ出没も多し。これまでは教育委員会に情報が上がってきても、同じ中学校区内しかシェアしていないケースが多かった。これからは近隣の中学校区まで広げたい、と。一歩前進！

しかし「地域住民への情報発信については、学校や教育委員会だけでは難しい面もある」とし、「警察との情報共有、関係部局との連携を図りたい」と。市民向けの防災防犯安全メールの導入が予算的に難しくても、ツイッターか FB での情報発信は今すぐにでも始められること。

◆ テーマ

1. 新文化会館について
 - (1) 基本設計の市民説明について
 - (2) 管理運営計画の策定について
2. 学校図書館について
 - (1) 給食・図書パートの勤務状況について
3. 防犯・防災情報について
 - (1) 不審者情報の共有について
 - (2) フェイスブックなど ICT を活用した市民への発信について

総務部長答弁は、

・ facebook は国や多くの自治体で導入されており、鶴岡市の情報発信機能を高め、防犯防災情報の伝達ツールとしても有効に活用できる可能性がある
 ・ 導入に向けて、先行自治体での事例を参考に、全庁的な運用体制や運用ルール、活用方法などの課題を整理し、適切な運用ができるよう検討を進めていきたい

実施時期こそ明言していないものの、かなり前向きな答弁です。

東日本大震災の 3 日前＝2011 年 3 月 8 日の一般質問で防災への ICT 活用を提言して以来、僕は一貫して市民への積極的な情報発信を求めてきました。鶴岡市のホームページは、各部署からの直接発信によって大きく改善しています。食文化関連の発信もめざましいですし、鶴岡市東京事務所の非公式ながら facebook 発信を始めておられる姿勢も評価します。「鶴岡市も、やれば出来るんだ！」と確信しているからこそ、防犯防災など市民の安全に関わる ICT 活用が進まないことへのモドカシサを覚えるのです。今後の展開に、期待し、注目していきましょう！

視察報告 ～島根県

■ 日時：2013 年 1 月 15 日～17 日

■ テーマ：学校図書館活用教育、教育委員会改革、再生可能エネルギー、地域交流センター

■ 視察地：島根県松江市、出雲市、雲南市

◆ 松江市

人口 20 万 6575 人 (平成 23 年 9 月時点)、面積 573 平方キロ。平成 17 年に 8 市町村が合併し、更に平成 23 年に東出雲町と合併し、山陰最大の都市に。市役所職員数は 2360 人 (平成 24 年 4 月時点)。市議会は 35 人。総務・

教育民生・経済・建設環境の4常任委員会で構成。

旧・東出雲町は、鶴岡市と並び称される学校図書館活用教育の先進地でした。松江市との市町村合併による変化にも関心をもって訪問しました。

朝7時半に旧・東出雲町の松江市立揖屋小学校へ。学校図書館の規模は小さいですが、子ども達の読書意欲を刺激するようによく考えられたレイアウト。貸出カウンターまで行列する間に見られるよう、新しく買った本やおすすめの本を紹介する手作りのスライドショーを流す徹底ぶり。

図書館での授業風景。授業を進めているのは担任ではなく、専任の司書教諭です。司書教諭と学校司書が両輪となって、学校図書館活用教育を支えていく理想的な構図。島根県知事がこの揖屋小学校を視察し、県全体として「子ども読書県しまね」の方針が決まったとのこと。やはり先進的な政策は、トップの判断しだいです。



◆出雲市

人口17万4960人(平成24年3月時点)、面積624平方キロ。平成17年3月に2市4町が合併。更に平成23年10月に斐川町を編入合併。

市役所職員数は1584人(平成24年4月時点)。市議会には38人で構成され、常任委員会は総務・文教厚生・環境経済・建設水道の4つ。

1) 教育委員会改革

出雲市では、学校教育現場における諸問題に対処するため、平成13年から生涯学習・芸術文化・スポーツなどの部門を教育委員会から切り離し、市長部局に移管。教育委員会は学校教育に専念しています。当時の市長が元・文部官僚で、教育問題に熱心だったことも原動力になったようです。教育委員会と市長部局の協議のために「教育行政連絡協議会」を設置。

市長部局では、総合政策部の中の自治振興課がコミュニティセンターの管理や事業支援を行い、文化環境部が生涯学習・スポーツ・図書館・文化財などを担っています。

学校管理費などの予算配分権を理事会に与えることで、理事の参画意識を高め、各校独自の事業を可能にしています。特別支援教育補助者や読書ヘルパーの増員や配置時間増などに活用されたとのこと。

2) 新エネルギー推進事業

出雲市は平成20年度に「次世代エネルギーパーク」

認定、21年度に「出雲市バイオマスタウン構想」を策定。新エネルギー推進に力を入れています。

平成21年建設の市庁舎は、太陽光発電によって6階建ての中の1フロア分の電力をまかなっているとのこと。市民へのわかりやすい意識啓蒙になっています。

平成17年12月策定の総合振興計画で掲げる「21世紀出雲のグランドデザイン」の中の「21世紀産業都市の創造」として、新エネルギー導入・利用促進を位置づけています。

《「企業が主役」の新エネルギー開発》を謳っており、(1)電機組合や建設業など地元企業がメガソーラー建設などで多角化(2)市外企業を誘致し、地元企業と連携など、行政は補助金ではなく情報提供で支援していく形でした。



◆雲南市

人口41917人(平成22年国勢調査)、面積553.4平方キロ。平成16年11月に6町村が新設合併して誕生。ヤマタノオロチ伝説でも知られています。

市議会は22人で構成され、常任委員会は総務・教育民生・産業建設の3つ。

1) グリーンパワーうんなん

雲南市の総面積の約8割が林野。鶴岡市と同様、倒木や間伐による林地残材が問題になっています。里山再生プロジェクトの一環として、森林バイオマスエネルギー事業を展開しています。

「市民参加型収集運搬システム」に参加する市民は、講習会でチェーンソーの使い方などを習得してから、軽トラックなどで山に入り、伐採作業や残材収集を行います。木材をストックヤードに運ぶと、現金3,000円/m³と地域通貨「里山券」3,000円/m³がもらえます。「里山券」は市内の地域通貨取扱店で使用でき、地域経済の活性化に寄与する仕組みです。

2) 地域交流センター

地域交流センターは従来の公民館を改革したもの。自治会が水道メーターのチェックをしながら高齢者に声かけする、など様々な事業を展開。自治会が、自分たちの集落で何ができるか協議し、住民票発行などの行政サービスも代行していくことも視野に入れて、「小規模多機能自治」に挑戦しています。高齢化先進地だからこそ、ハラを括って全国の先端に行く覚悟が素晴らしい！(了)

《ルネサス鶴岡工場》情報局 ~ facebook

<https://www.facebook.com/rene.tsuru.info>

「ルネサス鶴岡工場閉鎖？」問題勃発！

7月27日、「ルネサス鶴岡工場が閉鎖の方針」との衝撃的な報道。現実になれば、900人もの従業員、更に数千名にのぼるであろうご家族までが窮地に陥ります。

また、ルネサス鶴岡工場と取引がある企業は庄内地方で約60社、県内では直接取引43社、間接取引660社の計703社に上ります。売上げの半分以上を鶴岡工場に頼っている企業もあるとのこと、閉鎖となれば、地域経済への重大な影響が懸念されます。

7月28日、情報収集・共有のために、《ルネサス鶴岡工場》情報局というサイトを立ち上げました。マスコミ各社、微妙なニュアンスの違いがあるので、比較することで見えてくることもあるはず。ルネサス内部の皆さんからの情報提供もお待ちしております！

ルネサス鶴岡工場の技術力は高く評価されており、任天堂のWi Uの"命の石"である半導体を量産できる工場は世界でもルネサス鶴岡工場だけ、だそう。ルネサス幹部も「よそで作るのならば、二つの半導体を使うなど、設計そのものをやり直す必要があるのでは」と。

さて8月26日、注目すべき2つの記事が発表されました。



鶴岡工場の閉鎖ではなく、ルネサスからの独立という道が開けていくのかどうか、鶴岡市としても最大限の支援をしていくべきだと考えます。

▼東洋経済オンライン (2013.8.26 付)

ルネサス、鶴岡工場閉鎖は本当に妥当なのか “消えかけた” 独立案が再浮上

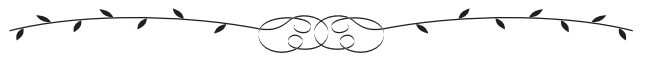
- ・1カ月前、国内のある大手メーカーから鶴岡工場に大口案件の打診があったが、鶴丸社長はこの提案を検討することもなく一蹴
- ・ルネサスは日立製作所、三菱電機の半導体を統合した会社と NEC の半導体子会社が統合して誕生した会社
- ・現在は日立出身者が優位にあり、鶴丸社長、赤尾泰前社長も日立出身。NEC 出身者は冷遇されている
- ・鶴岡工場は NEC 系。那珂工場は日立系の中核

▼週刊ダイヤモンド SCOOP (2013.8.26 付)

ルネサス・鶴岡工場閉鎖に「待った」 地元で再燃した工場独立計画

・『社内の主導権争いに勝利した旧日立製作所の勢力が、投資資金にも事欠く中で、那珂工場に設備を移したいだけだ』という指摘もある

・地元の関係者らを中心に、旧NECエレクトロニクス系の技術者、装置材料企業などが加わったグループは「鶴岡工場を閉鎖するよりも、売却して独立させた方がルネサスのメリットになる」と、ルネサス本社に対して鶴岡工場独立への交渉を始める意向



コラム 子育て支援～第三子の保育料無料化を考える

あるママさんから質問を受けました。「今年度から『小学校に在籍している子どもを含めて3人目の保育園児がいる場合は保育料が無料』になったが、どうして小学校在籍という条件がついているのか。ウチは上の子が今年中学校に上がったばかりなので、ちょっと悔しい気分。単純に、3人目無料で良いのでは？」と。

この制度について市役所に問い合わせると、確かに同様の苦情が何件か寄せられているそうです。

昨年度までは保育園児だけで3人いないと無料にならなかったで、対象は80人だけでした。今年度は400人ほどが無料になっているとのこと、子育て支援策としては確実に一歩前進しています。しかし、「少子化に対抗して子だくさんで頑張っているが、生活は正直大変。めんごいめんごいだけでは、育てらいねものの・・・」というママさんの声には説得力があります。

子育て支援制度を拡充し、鶴岡市の未来、日本の未来のために、子どもを生み育てやすい社会にしていくことは喫緊の課題です。国や県を含めて、真っ正面から取り組んでいかなければ！！



ブログ / ツイッター / フェイスブック
BLOG / twitter / Facebook での情報発信も！

<http://tanaka-tsuruoka.net/>
http://twitter.com/tanaka_hiroshi
<http://www.facebook.com/tanaka.officefon>